令和６年度　学校自己評価システムシート（県立熊谷西高等学校）

目指す学校像	生徒の力を最大限に伸ばす県北が誇る進学校

重点目標	1　知性・自信・品格を備えた西高生を育成する 2　高い志と学力を育み、第一志望進路を実現できる西高生を育成する 3　家庭や地域と積極的に連携・協力し、開かれた西高づくりを推進する 4　ＳＳＨ指定校として、西高生の科学的な資質の向上に全校で取り組む

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日現在）			実施日　令和６年３月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	多くの生徒が自覚を持ち、主体的・積極的に学校生活を送っている。 全校で統一した生活指導を引き続き行うとともに、厳冬期の登下校時の服装マナーについて検討していく必要がある。	㋐学校全体でマナー、ルール遵守を徹底する。	①教職員が共通意識を持ち、支援を実施。 ②厳冬期の登下校時の服装マナーについて検討し、策定する。	①共通意識を持ち、支援できたか。 ②厳冬期の登下校時の服装マナーが周知されたか。				
		㋑生徒の自主性と積極性を一層高める。	①学校行事や委員会活動において、生徒の自主的活動を支援する。 ②部活動でチャレンジ精神やチームワークを育成し、達成感や自信を持たせる。	①生徒が自主的に協働し、学校行事が運営できたか。 ②全生徒の自己達成感８０％以上。				
		㋒充実した学校生活を送るため、心身の健康増進を図る。	①教育相談体制の充実を図る。 ②感染症拡大防止を徹底する。	①生徒個々の把握に努め、相談しやすい体制を作れたか。 ②感染症罹患者を減らせたか。				
2	近年、進学実績の向上が見られる。多くの生徒が進学している。 全ての生徒に基礎学力を定着させるとともに、学習指導要領や大学入試の変化に適切に対応し、一人一人に対応した進路指導を行う必要がある。	㋐国公立大学や難関私立大学等の第一志望校合格を実現する。	①授業以外に補習や個別指導等を行い、基礎学力・応用力の確実な定着を図る。 ②適切な情報提供や個人面談等により、最後までチャレンジする指導を行う。	①学力向上が図られ、大学入試に対応する力がついたか。 ②現役進学率が昨年より増え、第一志望校に合格できたか。				
		㋑学習指導要領を踏まえた授業改善に努め、「生きる力」を育むとともに思考力、判断力、表現力を向上させる。	①探究活動やHR活動等を通じて主体的に学ぶ態度を育てる。 ②各授業でＡＬ（アクティブラーニング）やＰＣを活用した活動を充実させる。 ③朝学習、進路自習室、学習動画等の活用により自学自習を促進する。	①主体的に学ぶ態度が育まれたか。 ②生徒が積極的に授業に関わり、「主体的・対話的で深い学び」を実現できたか。 ③朝学習、自習室及び家庭における学習時間が増加したか。				
3	ホームページの充実やタイムリーな情報発信を行っている。校外の教育力を活用した特色ある教育活動が実施されている。 生徒募集につながる時機を逸さない積極的な情報発信が必要である。	㋐大学、企業、研究機関等との連携や家庭との連携を一層発展・充実させる。	①既存の連携事業を一層発展・強化する。 ②学校ホームページ、進路だより等を活用し、生徒・保護者に十分な進路情報を提供する。 ③学校行事とＰＴＡ各種委員会との連携を図る。	①連携事業の充実が図れたか。 ②学校ホームページ等でタイムリーな情報提供ができたか。 ③ＰＴＡと積極的な連携ができたか。				
		㋑生徒募集活動を一層充実させる。	①学校説明会、相談会等を効果的に実施する。 ②インターネット申込等を一層進める。	①昨年度と同程度の入試倍率を維持できたか。 ②中学生や保護者が利用しやすい申込み等が進んだか。				
4	学校全体としてのＳＳＨ事業への積極的な取組が定着しつつある。 第Ⅲ期申請がとおり、活動の更なる充実を図り、取組の校外へのＰＲと地域貢献が必要である。	ＳＳＨ事業を通じて科学的素養や探究心、プレゼンテーション能力等を引き続き育成するとともに、海外での研究発表や近隣自治体との連携を進める。	①全職員が共通理解のもと、第Ⅲ期ＳＳＨ事業に取り組む。 ②データの見方や分析方法の研究を進める。 ③マレーシアの大学での課題研究発表や地元高校生との交流を行う。 ④近隣自治体との連携を進め、地域の発展に貢献する。	①全職員による事業展開ができたか。 ②データの見方や分析方法の理解が進んだか。 ③海外での発表、交流ができたか。 ④近隣自治体との連携ができ、地域の発展に貢献できたか。				